

平成30年度第2回長井警察署協議会の開催

日 時	平成30年9月19日（水） 午後2時から午後4時20分まで
場 所	長井警察署 3階会議室、長井ダム百秋湖
出席者	協議会委員 会長以下7人 長井警察署 署長以下9人
議 題	・大規模災害発生時の対応について

【協議の概要】

大規模災害発生時の対応について	
委員からの意見等	警察署の回答
<p>防災訓練や対策会議に警察官が出席しており、町の状況を把握しているようなのでとても心強いと思っている。</p>	<p>大規模な自然災害が発生した場合、警察を始めとする公的機関の減災に向けた活動には限界があります。</p> <p>警察では、日頃から工夫を凝らした防災出前講座を実施したり、地域の防災訓練に積極的に参加するなどして、地域住民との連携を深めながら、防災意識の高揚を図っています。</p> <p>また、警察では、自然災害に対する備え(平素の措置)として、訓練はもちろんですが、基礎資料の収集整備を行っております。</p> <p>例えば、管内の災害危険箇所、災害時要配慮者関連施設、避難施設などがあり、町の状況をよく把握した上で、災害の発生に備えています。</p>
<p>災害発生時における警察署の役割を教えてください。</p>	<p>具体的な任務内容は、多岐に及びますが、地域住民の生命及び身体の保護を第</p>

	<p>一とした活動を行います。</p> <p>基本的な警察の対応は、被災状況を的確に把握して、その状況に応じた必要な活動を行うことです。</p> <p>例えば、大雨や洪水などの気象警報が発表された場合は、災害警備連絡室を立ち上げ、自治体の対策室と連絡を取り合いながら、管内の警戒を強化します。</p> <p>自治体が避難勧告・避難指示を出した場合には、広報活動、避難誘導、避難者の確認などを行います。</p> <p>実際に大規模な自然災害が発生した場合には、連絡室を災害警備本部に格上げし、現地本部を立ち上げるなどして、体制を強化して対応に当たります。</p> <p>例えば、災害現場における人命救助、交通規制、避難誘導などがありますが、場合によっては機動隊の派遣要請を行って対応をします。</p>
<p>北海道のような大地震が発生した際、警察ではどのような動きをするのか。</p>	<p>記憶に新しいのが東日本大震災ですが、警察には自主参集基準というものがあります。</p> <p>県内で震度5強の地震などが発生した場合に、署からの召集を待たずに、自ら参集するものです。</p> <p>しばらくの間、警察署で勤務することを想定し、着替えや非常食、水、ラジオ、懐中電灯などを持参して職員が参集します。</p> <p>その後、自治体の対策室と連携をとりながら、被災情報の収集に当たり、各種警察活動に当たります。</p>
<p>情報が迅速に伝わるのが重要だと考えている。</p> <p>関係機関との連携による統一した発信をするための枠組みを準備し、十分な訓</p>	<p>関係機関との連携は、災害対策上、最も重要な事項だと思います。</p> <p>常日頃から、自治体の担当者と連絡を密にしておりますし、大規模な災害が発</p>

練を実施してほしい。

生じた場合は、電話不通の場合を想定して、警察官を自治体の対策室に派遣して、横の連携をとることとしています。

各自治体の防災訓練に警察も参画し、連携を強化するとともに、有事の際の対応について常に協議しています。

また警察では、長井市のアルカディアネットワークさんと災害時の協定を結んでおり、ラジオ放送を活用した情報発信なども行います。

災害発生時は停電になると思うが、警察署が停電になった場合、どのように対応するのか。

警察署は停電に備えて、ディーゼルエンジンの発電機が設置されています。停電になりますと、5～10秒で自家発電装置が始動します。40時間は継続して発電することが可能です。

○ 協議会



会長あいさつ



署長あいさつ

大規模災害対応訓練の視察

会議に先立ち、長井市平野地内の長井ダム百秋湖において、大規模災害対応訓練として

- ・ 舟艇組立と操船
- ・ 救命索の発射

を実施し、その練度を視察した。

○ 大規模災害対応訓練の視察



協議会委員への申告



舟艇訓練



救命索発射機の説明



救命索の発射訓練

災害対策装備品の展示

会議室にあやめ交番に備え付けの「救助セット」と「トラメガ」を展示し、会議終了後に説明した。

○ 災害対策装備品の展示



救助セット及びトラメガの展示